

神奈川県保健医療計画 進捗状況評価調書

<項目>

第8章 個別の疾病対策

第7節 臓器移植・骨髄等移植対策

とりまとめ担当課：がん・疾病対策課

1 課題に対するこれまでの取組実績

(1) 臓器移植	
○ 県民への普及啓発や医療機関の体制整備への取組み強化	
→ 10月の「臓器移植普及推進月間」及び成人式において、臓器提供意思表示カード付きリーフレット等の普及啓発資材を各市町村や県内高校へ配布した。	
→ 横浜市営地下鉄横浜駅改札グランボード広告を掲示した。	
→ 東急東横線横浜駅デジタルサイネージ広告を掲示した。	
→ 一般県民への普及啓発として、10月に市民公開講座を開催した。	
→ グリーンライトアップキャンペーンを実施した。(大観覧車コスモクロック21や横浜市開港記念会館等の県内施設をグリーンにライトアップ、桜木町駅前でのキャンペーンイベントの実施)	
→ 法的脳死判定に関わる臨床検査技師研修会を開催した。(H30:1回)	
→ 脳死下臓器提供可能施設説明会を開催した。(H30:1回)	
→ 神奈川県移植医療連絡協議会を開催した。(H30:1回)	
○ 各医療機関で臓器移植の窓口となる院内コーディネーターの養成	
→ 院内コーディネーター研修会を開催した。(H30:3回、延157人参加)	
→ 院内コーディネーター委嘱状を交付した。(H30年度末までに累計268名に交付)	
→ 院内コーディネーター協議会を開催した。(H30:2回、延57人参加)	
(2) 角膜移植	
○ 普及啓発の強化	
→ 10月10日の「目の愛護デー」におけるパンフレット等普及啓発資材を各市町村や県内高校へ配布	
(3) 造血幹細胞移植	
○ 造血幹細胞移植に関する普及啓発	
→ 10月の「骨髄バンク推進月間」において、各市町村、各保健福祉事務所等にポスター及びリーフレットを配布した。	
→ 講演会及び個別相談会を3月に実施した。	
○ ドナー登録受付窓口の確保	
→ 県内8ヶ所の献血ルームの他、ルームのない地域の保健所3ヶ所(小田原保健福祉事務所及び大和センター、横須賀市保健所)で定期的にドナー登録希望者の受付を実施した。	

<p>→ 催しや献血バスを利用したドナー登録会を、10月の伊勢原道灌まつりや、大学及びショッピングセンターで実施した。</p> <p>→ 緊急雇用創出事業臨時特例基金を活用し、平成25年度に骨髄ドナー登録説明員を横浜駅東口クロスポート献血ルーム及びかわさきルフロン献血ルームに配置し、ドナー登録の呼びかけを行い、登録の促進を図った。</p>
--

2 参考指標の推移

指標名	単位	神奈川県内					参考指標を設定した理由	備考
		H30	R 1	R 2	R 3	R 4		

3 課題ごとの進捗状況の評価

(1) 臓器移植

評価	A ・ (B) ・ C ・ D
評価分析	<ul style="list-style-type: none"> 一般県民に対する臓器提供意思表示カードの配布や理解を深めてもらうための市民公開講座等の開催を通じ、県民に対して意思表示の推進を図った。また、脳死下臓器提供可能施設説明会といった会議を開催し、医療機関の体制整備を図った。 医療従事者に対する院内コーディネーター研修会等を開催し、臓器提供発生時の連絡調整が円滑に進むよう取り組んだ。
評価理由	<ul style="list-style-type: none"> 院内コーディネーター等の人材育成や、臓器提供体制の整備、臓器提供・移植のための一般県民と医療従事者に向けた普及啓発を推進するなど、課題解決に向けて比較的順調に進捗した。

(2) 角膜移植

評価	A ・ (B) ・ C ・ D
評価分析	<ul style="list-style-type: none"> 様々な媒体や機会を通じて角膜移植に関する普及啓発を着実に実施することにより、角膜提供登録の促進や提供に繋がっており、神奈川県内の角膜移植待機患者数は平成29年6月時点で53名だったのが、平成31年3月時点で11名だった。
評価理由	<ul style="list-style-type: none"> 県民の角膜移植に対する理解を深めることや、角膜移植の機会を確保していることなど、移植待機者の減少に向けて比較的順調に進捗している。

(3) 造血幹細胞移植

評価	Ⓐ ・ B ・ C ・ D
評価分析	<ul style="list-style-type: none"> 登録場所である献血ルームに骨髄ドナー登録説明員を配置し、献血併行型ドナー登録会を実施したことなどにより、新規ドナー登録者数が5年間で 8.531 人増加した。
評価理由	<ul style="list-style-type: none"> リーフレット等の配布、講演会や個別相談会を開催したことにより、広く県民に骨髄ドナー登録等への理解を推進することができた。 骨髄ドナー登録説明員の配置や献血併行型ドナー登録会の実施によって、ドナー登録者数が大幅に増加しており、課題解決に向けて大きく進捗している。

4 総合評価

評価	評価理由
B	<p>臓器移植対策については、県内関係機関と協力しながら、様々な普及啓発に取り組んだ。また、角膜移植対策については、着実に理解を浸透する活動を継続しており、移植の機会の確保に繋げている。</p> <p>さらに、造血幹細胞移植対策については、最重要課題である骨髄ドナー登録者の確保のため、献血ルームへの説明員配置などに取り組んだことにより、新規ドナー登録者数が大幅に増加し、大きな成果を出している。</p>